

チャペル フックレット No.22

F. C. クラインと「敬神愛人」

黒柳志仁



名古屋学院 クライン・メモリアル・チャペル


Culture & Human Resources
NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY

名古屋学院大学


Culture & Human Resources
NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY

名古屋学院大学 宗教部



F.C. クラインと「敬神愛人」

名古屋学院大学 国際文化学部

黒柳 志仁

本稿は2018年11月28日、名古屋中学・高等学校で開催された本学との「合同礼拝（教職員宗教研修会）」において研究講演を行った内容に加筆・修正を施した。
JSPS 科研費 17K18218 の交付を受けて行った研究成果の一部である。

本日は演題の「F.C. クラインと『敬神愛人』」について、1. 敬神愛人の由来と歴史、2. F.C. クラインの学生時代、3. クライン夫婦の名古屋での日々、4. 私立名古屋中学と F.C. クライン、5. クライン夫妻の墓碑。こうした5つの視点から、お話をさせて頂きたいと思います。

1. 敬神愛人の由来と歴史

「敬神愛人」は、創設者 F.C. クライン博士 (Klein, Frederick Charles, 1857-1826) が 1887 年 (明治 20 年) 9 月、名古屋英和学校の開校に伴い、建学の精神として掲げた「神を敬い、人を愛すること」を意味する聖書に基づいた言葉です。

敬神愛人とは、どのような意味なのでしょう。この言葉は、イエスの御言葉である福音書に由来しています。律法の専門家が、イエスに次のように尋ねます。

「『先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。』イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』」(新約聖書「マタイによる福音書」22 章 36～39 節)

人間は神を敬うこと、人間のおごりを戒め、神に対する畏敬は信仰者の基本であること。そして自分を愛するように隣人を愛することが示されています。愛は、人間の思い、言葉、行いといった私たちの日々の態度を通して人々に示されるものでもあります。こうしたイエスが最も大切な掟として守らなければならない教えが、「敬神愛人」という言葉に集約されています。

【表1】建学の精神に表れた「敬神愛人」¹ (明治期)

年代	校名
明治 7 (1874) 年	東奥義塾 本多庸一
明治 20 (1887) 年	名古屋学院 F.C. クライン
明治 25 (1892) 年	東北学院 押川方義 (開院式)

この「敬神愛人」という言葉は、いつから日本で使われたのでしょうか ([表1] 参照)。明治時代に遡ってみると、後に青山学院の院長を務め、日本メソヂスト教会の初代監督であった本多庸一氏が明治 7 (1874) 年、青森県にある東奥義塾の塾長に就任した際、建学の精神を「敬神愛人」とした例のもっとも古いものと現時点では考えられます²。

1 「敬神愛人」の系譜 (采輪: 名古屋学院大学読書ブログ)。

<http://blog.ngu.ac.jp/dokusho/2014/09/post-811.html> (最終閲覧日 2019-02)

上記を含め、F.C. クラインに係わる資料は名古屋学院大学大学院事務局・山内隆文氏に拠っている。

2 鈴木範久, 明治宗教思潮の研究: 宗教学事始, 東京大学出版会, 1979. P.175。

また名古屋英和学校の開学 5 年後の明治 25 (1892) 年、東北学院の初代院長押川方義氏は開院式において「敬神愛人」を掲げています。「敬神愛人」という語句は、クライン博士が名古屋英和学校を設立した明治 20 年当時、すでに日本のキリスト教関係者の間で、新約聖書を通してイエスの教えを示す言葉として、広く知られていたと考えられます。

名古屋英和学校を前身とする名古屋学院大学は、創立以来、クラインの教えである「敬神愛人」を守りつづけています。

2. F.C. クラインの学生時代

F.C. クラインは 1857 年 5 月 17 日、ワシントン D.C. でドイツからの移民であったジョン・クラインと、フランス出身のキャサリンの間に生まれ、3 歳上のアメリカ人がいました。1865 年 8 月 7 日、南北戦争の終結から 4 か月後、父親のジョン・クラインが 45 歳で亡くなったとき、F.C. クラインはまだ 8 歳でした。当時クライン一家は、ヴァージニア州アレクサンドリア市に住んでいましたが、これを機にメリーランド州ボルチモアに引っ越しました。

今回 F.C. クラインの 1910 年と 1920 年のパスポート申請記録をもとに、F.C. クラインのボルチモアの住所を訪ねてきました ([写真1] 参照)。これらの家に F.C. クラインが住んでいたのでしょうか。残念ながら、これらの建物が何年に建設されたのか不明なため、まだ確証が得られていません。



3414 Piedmont Ave.

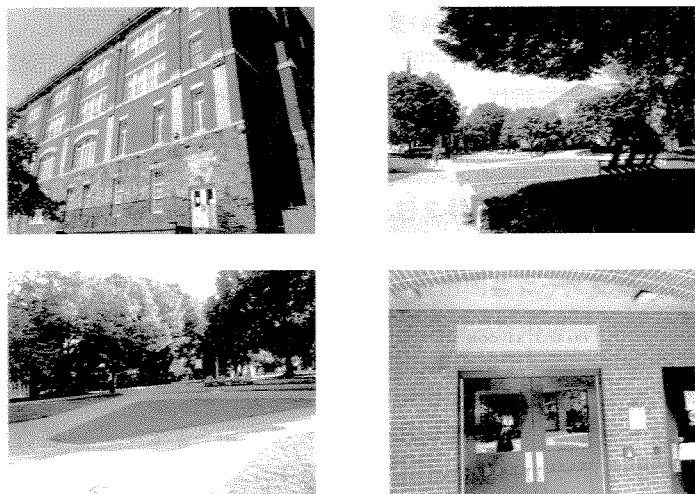


3305 Pawhatan Ave.



【写真1】F.C. クラインが住んでいた住所の現在の様子

今回のアメリカ調査で、F.C. クラインが1880年に卒業した Western Maryland College (WMC) を訪問しました。WMC は、2002年に、同大の名誉教授 W.R. McDaniel に敬意を表して、McDaniel College に校名を変更しました ([写真2] 参照)。W.R. McDaniel は WMC で F.C. クラインとともに学んだ仲間で、クラインの追悼礼拝では友人として弔辞を述べています。

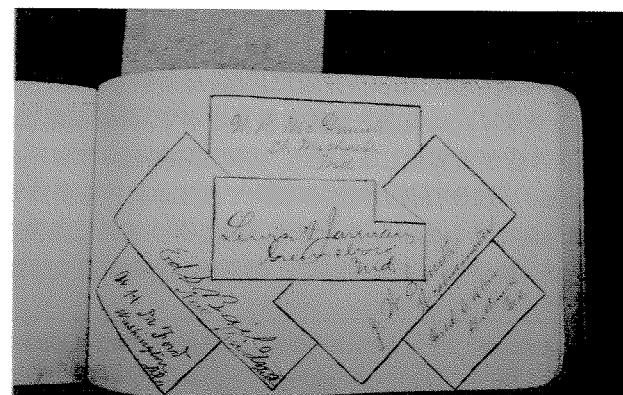
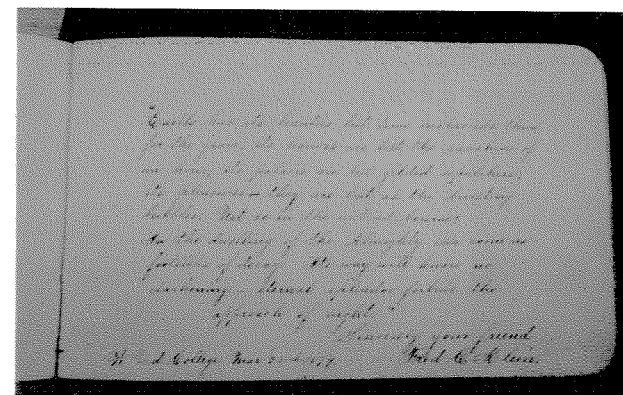


[写真2] Western Maryland College (現・McDaniel College)

大学構内にある Hoover Library での史料調査で、F.C. クラインの学生時代の成績を閲覧することができました ([写真3] 参照)。F.C. クラインは、ラテン語、ギリシャ語、ヘブライ語、数学、物理、化学においても、在学期間、すべて優秀な成績を収めていました。アメリカの大学では、卒業アルバムに、友だちに対するメッセージを一冊に寄せ書きする習慣があるそうで、F.C. クラインのところには、成績優秀で、とても美男子でジェントルマン。多数の女性から好かれて人気者、といったことが書かれていました。卒業式は病気で休んだことも出欠記録に残っていました ([写真3、4] 参照)。

1875-76	1876-77
Preparatory	Male Collegians
English	Mathematics
Latin	Logic
Greek	Philosophy
Algebra (math)	Physical Science
Arithmetic (math)	Physical Science
Math	Fresh man class
1877-78	78-79
Latin	Science (math) and Science (Sci)
Latin and Greek	Math (Sci) and Sci
Mathematics	Latin Greek
Physical Science	Physical Science
	Mathematics
	1879-80

[写真3] 成績 (成績証明書は撮影禁止のため手書きしたもの)



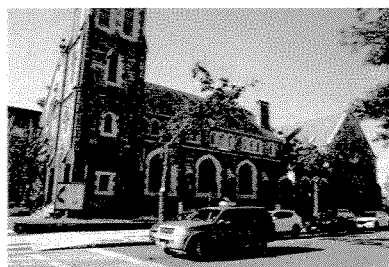
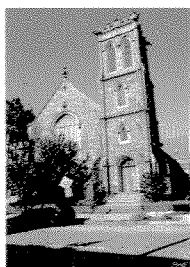
[写真4] 卒業アルバム (McDaniel College 所蔵)

その後F.C. クラインは、アメリカ・メリーランド州ボルチモアにあるセント・ジョン教会（メソジスト・プロテスタント教派）の外国伝道局宣教師として働きます（[写真5] 参照）。

メソジスト・プロテスタント教派は1828年にアメリカで誕生し、教会の日曜学校で教育に恵まれない子どもたちに一般教養を教え、学校や病院の設立、黒人奴隷の解放など、社会福祉活動を積極的に行っている教派です。

F.C. クラインは26歳の時メアリー・エリザベス・パットン（Patton, Mary Elizabeth. 1861-1958）とアメリカで結婚し、アメリカ宣教局の推薦で、当初5年間の予定で、日本に派遣されました。それは彼が教派の中で、歴代最初の教職資格をもつ宣教師であり、教会設立に携わり、教育伝道に深く関わりをもった人物であったからです³。

日本への外国人宣教師を見ても、夫婦で派遣され、異国の地で活動することは稀で、二人の間に子どもはいませんでした。極めて仲のいい夫婦であったようです。妻メアリーを「ダーリン」とか「クイーン」と呼んでいたようです。



[写真5] セント・ジョン教会（St. John's of Baltimore）

3. クライン夫婦の名古屋での日々

クライン夫婦が初めて名古屋に来たのは1885年、明治18年5月のことでした。そこでF.C. クラインは英学塾の山根虎次郎に会い、メアリー夫人は、女子教育をはじめました。F.C. クラインは英語と聖書を教える中で、勝間田愛知県知事と出会い、山根と学校設立の話が具体化しました⁴。勝間田の娘はメアリー夫人からオルガンのレッスンを受け、知事後援の西洋音楽会で出演の依頼を受けているほど、素晴らしいオルガン奏者でもあったようです。F.C. クラインは熱田近郊で「仏像が並ぶお堂のなかで、僧侶達や大衆を前に、御言葉を宣べ伝えた」という記述も

3 日本基督教団横浜本牧教会編、ジャン クランメル論集：メソジスト・プロテスタントチャーチ・イン・ジャパン、2006. P.44.

4 名古屋学院百年史編集委員会編、名古屋学院百年史：1887～1987. 1987. P20.

あり、キリスト教伝道を、現在の熱田区でも行っていたようです。また当時の高長名古屋市長の娘が、東京のミッションスクール出身で、市長一家はクライン夫妻を訪問し、友人と共にメアリー夫人の西洋料理と英会話のクラスにいらてくれるように頼んでいます⁵。

こうした公人との出会いと、クライン夫妻の名古屋の人々への心づかいが、後に名古屋英和学校が誕生する契機となりました（[写真6] 参照）。メアリー夫人が既婚婦人に教室を開き、裁縫、料理、英語、聖書を教えた教育活動は、後に名古屋英和女学校の開校へと繋がりました。F.C. クラインの功績を語るとき、彼を支え、自らも力を尽くしたメアリーの存在を忘れてはならないでしょう⁶。

1893年、病のためF.C. クラインは妻メアリーと共にアメリカに帰国します。



[写真6] 明治21年春（写真中央上がF.C. クライン）名古屋英和学校の教員、及び諸教会の教役者、青年会の人々（名古屋中学・高等学校所蔵）

4. 私立名古屋中学とF.C. クライン

F.C. クラインが日本の地を再び訪れるのは1919年、日本を離れてから26年、62歳のときでした。東洋での伝道状況視察のため、J.C. ブルームフィールド博士とともに日本に立ち寄ったのです。二人は11月25日から同27日にかけて、私立名古屋中学校を訪れました。当時の私立名古屋中学校、現在の名古屋市東区長久寺町での経験を1920年に教派の会報 Methodist Protestant Herald で、F.C. クラインは次のように報告しています（[写真7] 参照）。

5 日本基督教団横浜本牧教会編、前掲書、2006. P.101.

6 名古屋英和女学校の校長ミセス・クライン（葉輪：名古屋学院大学読書ブログ）。
<http://blog.ngu.ac.jp/dokusho/2013/09/post-624.html>（最終閲覧日 2019-02）

「私たちの私立名古屋中学校には、600 人以上の若い男性が在籍しています。私たちの演説には特別な時間が割り当てられました。木村克己校長は、過去にアメリカで 10 年を過ごし尊敬されるリーダーで、彼は校訓について説明をしました。それは大きな漢字で、『Worship God, Love Man: 神を敬い、人を愛す』という言葉でした。また 1 年間使用する標語は、演壇の後ろ側に吊り下がっており、『Cooperation in love and fellowship: 友愛協力』を意味していました。木村校長は長い紙で標語を私に書いてくれました。私は『Fear God, Do Right, Live Nobly: 神を恐れ、正しい行いをし、立派に生きよ』と書きました。私は大きな丸いブラシのような日本の筆で書きました。私たちはその礼拝堂で、明朗で若い生徒たちの前で話し、アメリカの生徒に演説しているかのように完全な自由を得ました。私たちは日本のすべてのメソジスト・プロテスタント宣教師の中で、最大の配慮を惜しみなく受けました。日本人の礼儀と、いたわりを忘れずに。」(私訳)

and church may continue. However, we have been very fortunate this winter with our church work, and hope soon to see those who are now sick well, and resume our work again.

The people have attended well and have taken a great deal of interest in Sunday school this winter. Our good superintendent, Mr. Boone, has certainly filled his place well, and I am sure his efforts have been appreciated by all. The young men's prayer meeting has proved to be most beneficial to the church. The ladies are now invited to attend every Wednesday night. Best wishes to all for a prosperous year's work in the church.

Reporter.

EXPERIENCES IN JAPAN.

There are a few outstanding things which are connected with our brief sojourn in Japan.

Our visits to the Girls' School of the Woman's Foreign Missionary Society located in Yokohama, where, after addresses, Brother Bloomfield dealt with a few of the girls who had been greatly moved, and his subsequent visit when several met him with earnest inquiries as to the way of life.

The greetings by a number of the missionaries of the city and surroundings one afternoon was especially appreciated as opportunity was given to renew acquaintances with friends I had known there when laboring as a missionary.

The two opportunities to address the students of our Board's night school were eagerly

[写真 7] Methodist Protestant Herald 1920

「アメリカの生徒に演説しているかのように完全な自由を得た」という記述からも、F.C. クラインが英語で演説をし、生徒が英語で理解していた様子がうかがえ、1919 年当時から英語教育を積極的に取り入れていたことが分かります。

この F.C. クラインの書いた記事にある私立名古屋中学校の木村校長が説明し演壇に掲げられた漢字の校訓が、奥野正綱による 1906 年の揮毫「敬神愛人」です([写真 8] 参照)。

現在も名古屋中学校・高等学校に所蔵されており、大学にもその複製が掲げられています。F.C. クラインは敬神愛人という言葉と共に、日本での経験を、名古屋中学校の全校生徒の前で、『Fear God, Do Right, Live Nobly: 神を恐れ、正しい行いをし、立派に生きよ』とメッセージを送りました。



[写真 8] 中央上 奥野正綱の揮毫「敬神愛人」大正 10(1921)年
(名古屋中学・高等学校所蔵)

5. クライン夫妻の墓

1926 年 12 月 27 日、F.C. クラインはバーヴィングの自宅で死去します。69 歳でした。

現在、名古屋中学・高等学校が保管されているクラインの関係史料から、当時の追悼式の式文がありました([写真 9] 参照)。そこには当時、海外宣教伝道に 5 万ドルの献金、そして日本の名古屋カレッジに 1 万ドルの献金を募ることが書かれています。

海外伝道局長の J. C. ブルームフィールドは、追悼文で次のように書いています。

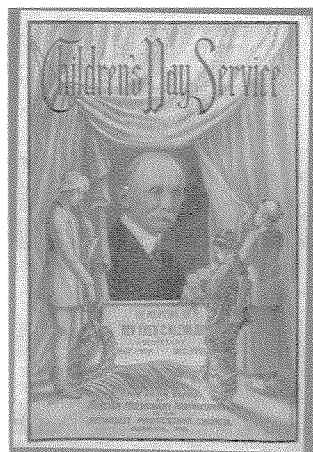
「フレッドリック C. クライン、名誉神学博士の追悼

メソジスト・プロテスタント教会の海外伝道団体と女性海外伝道協会は、海外宣教師の連盟委員会として、クライン博士の死は、とても大きな損失を得ました。この大きな損失は、全教派に強く感じられていると確信しており、多くの人々が神と教会に、この忠実な僕(クライン博士)の記憶を存続させるために、大きな協力をする機会になりました。海外伝道団体は、このクライン博士への追悼献金について、すべての日曜学校と教会に団結するように求めました。

クライン博士は私たちが日本に最初に派遣した宣教師でした。亡くなる前、大きな野心から、日本で現在建設中の名古屋カレッジの教会が建てられ、支払われました。海外伝道団体は、十分な追加資金でこの多大な要求を満たし、クライン博士の名をその教会に、永久に結びつけることに大いに感謝しています。

今年の提供額が昨年より1万ドル増えれば、理事会は念頭に置いたことが可能になります。あなたはそれを援助しますか。クライン博士はこうした記憶に値する功績を残しました。J.C. ブルームフィールド 海外伝道局長」(私訳)

このように、日本におけるクライン博士の功績は、アメリカにおいても、大きく賞賛され、追悼式で集められた献金は、日本の名古屋カレッジ(私立名古屋中学)に支払われることも記載されています。



2 Our Aim: \$50,000 this year from our Sunday Schools for Foreign Missions.

MEMORIAL TO REV. FRED. C. KLEIN, D. D.

Executive Secretary of the Board of Foreign Missions from May 1908 to Dec. 1926—the time of his decease; and of the Union Board of Foreign Missionary Administration from May 1924 until the hour of his death.

The Board of Foreign Missions, and the Woman's Foreign Missionary Society, of the Methodist Protestant Church, carrying on their work as The Union Board of Foreign Missionary Administration, suffered a great loss in the death of Rev. Fred. C. Klein, D. D. Because of their firm belief that this great loss is keenly felt throughout the whole denomination, and that many of our people would appreciate an opportunity to co-operate in doing something substantial to perpetuate the memory of this faithful servant of God and of the Church, the Union Board decided to ask all the Sunday Schools and churches to unite in regarding this Children's Day Service and its offering as a Memorial to Dr. Klein. Since Dr. Klein was our first ordained missionary to Japan, and since his great ambition and anxiety before he died was to see the church at Nagoya College, Japan, now under construction, built and paid for; the Board would greatly appreciate having enough extra funds come in through the Children's Day offering to meet this great need, and to justify the Board in permanently associating Dr. Klein's name with that church. If the offering this year is \$10,000.00 larger than it was last year, the Board will be able to do what it has in mind. Will you help make it so? Dr. Klein was eminently worthy of being thus remembered.

J. C. BROOMFIELD, President.

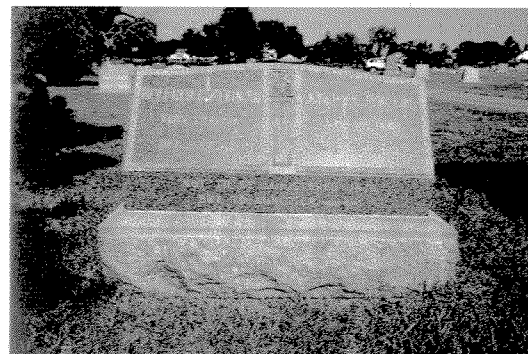
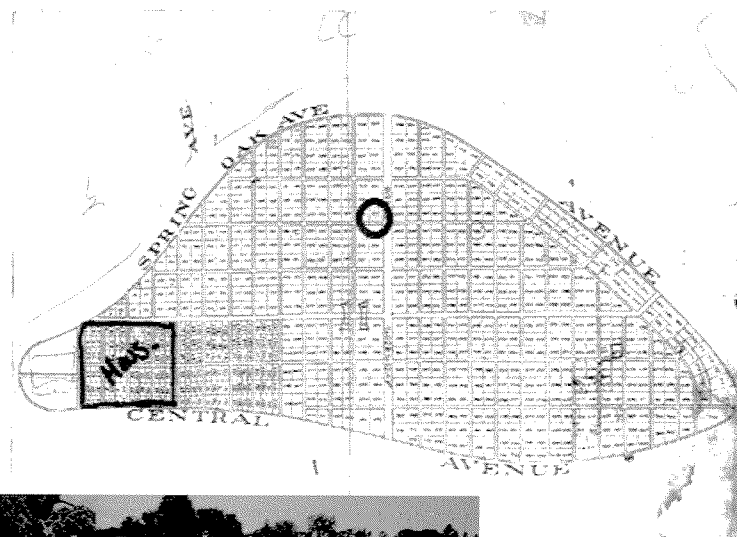
[写真9] J.C.ブルームフィールド米国海外伝道局長からのメッセージ
(名古屋中学・高等学校所蔵)

今回のアメリカ調査で、メリーランド州ボルチモアにある共同墓地ロレーヌ・

パーク・セメタリー (Lorraine Park Cemetery) を訪れました。その広大な敷地の中に、現在もクライン夫妻の墓碑があります ([写真10] 参照)。

クライン夫妻の墓碑には、マルコによる福音書10章45節に記された「仕えられるためではなく、仕えるために (Not to Be Ministered unto, but to Minister.)」という聖句が刻まれていました。それはイエスの生涯で、人に仕える奉仕の生涯を歩むよう、弟子たちに諭す箇所でもあります。

クライン夫婦の墓碑は中央丸の場所にある。



[写真10] 共同墓地「ロレーヌ・パーク・セメタリー」の全体地図

INTERMENTS

NAME	NUMBERS	DATE	YEAR	REMARKS
Frederick C. Kline	11364	Dec 29	1926	
Mary E. Kline	11365	Mar 12	1958	
William A. Kline	11366	Mar 12	1958	

DIAGRAM
FRONT OF LOT.

〔写真 11〕 墓地管理者記録書（丸箇所がクライン夫婦の墓碑）

このクライン夫妻の墓碑の管理者について事務所の記録書を調べたところ、次のことが明らかになりました（〔写真 11〕参照）。

1926 年 12 月 29 日に妻メアリーによって、夫フレデリック・クラインが埋葬され、1958 年 3 月 12 日に妻メアリーが、当時の墓地の土地管理者であるブリック氏によって、夫フレデリック・クラインのすぐ隣に埋葬され、新たに夫婦一緒に墓碑に埋葬されたことが分かりました。現在の墓碑は、妻メアリーが生前にデザインし聖句を決めていたようです。

この共同墓地の事務所に保管されていたファイルの中に一通の手紙が残されていました。それは妻メアリーのものでした（〔写真 12〕参照）。

THE Lorraine Cemetery,
Baltimore, Maryland.
Dear Sir:-

I wish to inquire concerning your rules governing flowers on graves. My husband, Rev. Fred. Kline, was buried in the McCreighton lot on the hill on December 29, 1926.

Living so far away it is impossible to get there often and I bought two palms, prepared to resist weather, and fastened them so they would not be blown away, and yet when I went there not long after the palms had been removed as well as the flower holder. I wish to observe your rules but do not wish to put "everlasting" flowers there if they are to be removed soon after.

Thanking you for the information I am
Very truly,
Mary E. Kline

〔写真 12〕 メアリー夫人の手紙（1927 年 10 月 26 日付）

この手紙は、夫フレデリック・クラインが亡くなった翌年 1927 年のもので、墓地の花を管理しているシラ氏に宛て、次のことが書かれていました。

「私は墓地で花の管理しているあなたの規則について問い合わせをします。私の夫フレデリック C. クラインは、1926 年 12 月 29 日に Mc クレイトン所有の土地に埋葬されました。私は 2 本のシュロの木を買い、天候に耐えられるよう固定をしました。もし 2 本のシュロの木が伐採されてしまうことになっているのなら、私はあなたの規則を守りますが、ムギワラギクの花はそこに植えたくはありません。あなたの連絡に感謝します。E. メアリー・クライン（1927 年 10 月 26 日ローレーヌ墓地）」（私訳）

メアリー夫人は、墓碑の花を管理するシラ氏に宛てて、2 本のシュロを植えたと書かれています。ムギワラギクは、思い出や永遠の記憶といった花言葉があります。日本でも見られますが、ムギワラギクは植えないように頼んでいます。現在は残念ながら、メアリー夫人が植えたその 2 本のシュロの木はありませんでした。

シュロはキリスト教において、イエス・キリストが十字架に架けられる前、最期のエルサレム入城の時に、人々がシュロの葉を振って迎えた出来事に由来し「イエス・キリストの受難」を意味するモチーフでもあります。

十字架上のイエス・キリストの姿を聖書は次のように記述しています。

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」(新約聖書「フィリピの信徒への手紙」2章6～8節)

明治期のアメリカの宣教師は、自分の死をもいとわず、未開の異教徒のもとに赴いて、その救済のために働く人、自己犠牲と奉仕の象徴的モデルでもありました。クライン夫妻の墓碑に刻まれた「仕えられるためではなく、仕えるために」という聖句は、まさにイエスの歩んだ道を、ふたりが示しています。「敬神愛人」はイエスが最も大切な掟として集約された聖書の言葉であり、イエスに追従する者として、イエスと共に、フレデリックとメアリーという一組の夫婦が生きた道を示した言葉でもあると感じられるのです。

今回のアメリカ調査で、新たに18冊のF.C.クラインの関係図書を複写し、698枚の史料撮影を行いました。これらの史料をもとに、今後もクライン夫妻が私たちに残した道、その志を共に歩んで参りたいと思います。

最後になりましたが、今回の研究講演にあたり、名古屋中学・高等学校所蔵の貴重な関係史料をお借りし作成いたしております。重ねて感謝をいたします。

ご清聴ありがとうございました。

敬神愛人

Frederick Charles Klein, 1857-1926
Mary Elizabeth Klein, 1861-1958



黒柳 志仁 (くろやなぎ ゆきひと)

1977年愛知県生まれ。名古屋学院大学 国際文化学部准教授。ミュンヘン大学 神学研究科博士課程修了 神学博士 (Dr. theol.)。専門は旧約聖書学、詩編研究。

F.C. クラインと「敬神愛人」

黒柳 志仁

チャペルブックレット No.22

2019年3月31日発行

編集・発行

名古屋学院大学 宗教部／キリスト教センター

〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町1番25号

TEL 052-678-4096

印刷 有限会社 五十嵐印刷社